

特別支援学校 学校評価一覧表②（令和2年度版）

（様式2）

羅 針 盤			※各学校 で設定	達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		①	②	総合		
Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	① 保護者への授業公開を毎月2回、地域への学校公開を年2回以上実施し、参加者（保護者を中心に教育関係者や地域住民等）の80%以上から「学校の様子がわかった」と好意的な評価を受けている。	教育活動の積極的な公開	B	A	A	・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、保護者、地域等への授業公開・学校公開はほとんどできなかった。2学期のみ、学部ごとや録画上映など、実施方法を工夫しながら公開することができた。 ・ ホームページの充実に努め、種々な学校行事や日常の様子等をタイムリーに掲載することができた。 ・ 直接交流としては、沼田東小学校との合同避難訓練、高等学校との交流、地域の学校開放講座を行った。それ以外は、作品交流などの間接交流を実施した。	・ 次年度もコロナ禍で今年度同様の状況が続くことも予想されるので、オンラインシステムを用いた公開を併用するなどの工夫をしていく。 ・ ホームページの頻繁な更新にもかかわらず、家庭にオンライン環境がない場合もあるので、DVD配付による動画配信なども行っていく必要がある。 ・ 次年度も、間接交流が主になることが予想されるので、作品交流、手紙交流の他、オンライン交流なども取り入れていく。 ・ 「地域の学校開放講座」としての「レザークラフト教室」は、本校の特色ある取組として、次年度も継続して実施する。地域への周知を早い時期から行っていくようにする。
		② 通信・配付物等で情報発信を行い、その内容について保護者の80%以上が満足している。	家庭・保護者との連携強化	A	A	A		
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③ 地域の小・中・高校や福祉施設との交流及び共同学習や居住地校交流で保護者や相手校の80%以上から、有効な交流であったとの評価を得ている。	交流及び共同学習の充実 「かがやき工房」による発信・つながり	B	A	A		
Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	④ 地域の各学校等からの依頼に基づき懇切丁寧な助言援助を行うとともに、地域の幼稚園・小学校・中学校の特別支援教育コーディネーターに対する研修会を年1回以上開催し、研修参加者の80%以上から満足を得ている。	センター的機能の強化	A	A	A	・ 地域相談支援室「かがやき」のパンフレットを作成し、専門アドバイザーの効果的な活用方法を地域の学校、園に配付したことで、よりの確にニーズに応じた支援をすることができた。 ・ コーディネーター研修は、オンラインで実施した。	・ 地域相談支援室「かがやき」の業務については、今年度の方法を継続する。 ・ コーディネーター研修の開催方法については、集合研修以外のやり方も工夫していく。
Ⅲ 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑤ 「個別の指導計画」を踏まえた教育計画を立案・遂行するために、保護者との個別面談を年3回実施するとともに、教職員同士で指導状況を確認し合う機会を月2回以上設け、80%以上の教職員が個に応じた指導の充実に役立ったと感じている。	個別の指導計画・個別の教育支援計画の活用強化	B	B	B	・ 1学期はコロナ禍による休業等で「個別の指導計画」に基づく指導が遅滞したが、通常登校となった7月以降は計画通り実施できた。 ・ コロナ禍ではあったが、外部の専門家が来校しての研修、自校職員による研修、外部機関によるオンライン研修など、数多くの研修を実施し、参加することができた。 ・ 各学部一つの研究授業と、全員参加によるワークショップ型の授業研究会を実施し、実践に生かせる土台づくりができた。 ・ アセスメントとしての実態把握表の記入を、毎学期末に定期的に行うことを再確認した。	・ 引き続き、実態把握表による児童生徒のアセスメント、保護者との共通理解のもと、目標設定や指導を行うようにする。 ・ 定期的に行われる学部会の中で、「個別の指導計画」の指導状況を確認できるような項目を設定する。 ・ 年間を通して、校内研修のテーマと関連させて研修会や講演会を計画・実施するとともに、オンラインによる外部研修の参加者を積極的に募っていく。 ・ 引き続き、月1回の校内研修を有効に活用し、個の実態に応じた指導支援の方法を研究していく。 ・ 研究授業や授業研究会で得られた研修成果や井戸端授業研究会で話し合われた内容を、日々の実践に生かせるようなシステムの構築を図る。
		⑥ 校内や校外の専門的な研修に教職員一人あたり年間3回以上参加し、研修成果を授業に生かしている。	外部の専門家の活用	A	A	A		
		⑦ 年間2回以上の授業研究会及び月1回以上の研修で個の実態に応じた指導支援の方法を研究している。	実態に応じた指導法の研究	A	A	A		
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑧ 「個別の指導計画」に基づいた指導結果について、保護者の80%以上が満足している。	ねらいの明確な授業と授業改善	A	A	A		
Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑨ 児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の80%以上が満足している。	毎日の連絡帳の活用などによる保護者との緊密な連携	A	A	A	・ 児童生徒がけがや体調不良の際には、保護者に連絡をし、早めの対応をすることができた。 ・ 休みの日も含め、日々の健康状態をメールシステムで確認することができた。 ・ 医療的ケア研修により、教職員の対象児童生徒への理解が深まり、日々の指導に生かすことができた。 ・ 1学期は地震発生想定避難訓練、2学期は隣接の沼田東小学校と合同で火災想定避難訓練を実施した。概ね緊急時の対応はできている。	・ コロナ禍で、保護者に直接会う機会は増やせないと思われるので、電話やメールシステム等での情報交換の機会を増やしていく。 ・ 本校が研修したい内容に沿った講師を依頼するのが難しい場合もあるが、引き続き、対象児童生徒に係る知識が共有できるようにしていく。 ・ 年度当初に防災マニュアルを研修等で確認する他、年度途中でも確認する機会を設け、すべての職員が自分の役割や業務内容を理解できるようにする。
		⑩ 医療的ケアに関する校内における研修を年4回実施し、80%以上の教職員が、研修で得た知識を生かした指導ができていると感じている。	医療的ケアの安全な実施	A	A	A		
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑪ 危機管理マニュアルをすべての教職員が理解している。	安心・安全な学校	B	B	B		

V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑫ すべての教職員が、児童生徒一人一人の「地域で豊かに生きていく力」を育成するため、キャリア教育全体計画に沿って指導や支援をしている。	「かがやきプラン」による、小中高12年間の系統的な指導	A	A	A	「特別支援学校進路先研修(視察)」やキャリア教育年間指導計画ならびに授業実践及び研修によりキャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行うことができた。	本校で目指す「地域で豊かに生きていく力」とは具体的にどのような力なのかをそれぞれの段階で具体的に把握するための一助として、高等部で実施している現場実習関連資料(主に評価票)の内容を職員間で情報共有するとともに、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、長期休業中における職員による施設見学、利用相談の機会を増やす。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑬ 保護者との面談や進路通信で提供される進路指導に関する情報が役立っていると感じている保護者が80%以上である。	関係機関との連携強化	A	A	A	新型コロナウイルス感染症の関係で多くの会議が中止等になったが関係機関との連携や進路通信の発行、進路関連行事の実施を通して発達段階に応じた進路指導を行うことができた。	引き続き進路通信の定期的な発行や進路関連行事を実施するほか、担任と連携し個別の面談、相談の機会を設定する。併せて新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら保護者と同行の上での施設見学、利用相談の機会を増やす。
VI いじめを許さない学校づくりを行っていますか。	10 児童生徒主体のいじめ防止活動に積極的に取り組んでいますか。	⑭ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と感じている保護者が80%以上である。	いじめを許さない学校づくり	A	A	A	アンケート調査にかかわらず、日頃から各教員が、いじめの疑いがある行為をいじめ防止対策委員会へ報告し、組織的に共有することができた。	- いじめ防止対策委員会・校内研修・学部会議等を通じ、情報交換、共通理解を図り、全職員で組織的に対応する。 - 引き続き、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、全職員で共通理解を図り、未然防止・早期発見に努める。